

小学校六年

ゆうチャレンジ 話すこと・聞くこと

この音声問題は、小学校第六学年国語問題の冒頭に放送するものです。

はじめに、小学校六年国語「話すこと・聞くこと」にチャレンジしましょう。

今から一回だけ問題を放送します。よく聞いて、あとの問題に答えてください。問題用紙は開かないでください。聞いていて大切だと思うことは、表紙の空いているところにメモを取りましょう。

太郎さんの学級では、卒業を前にみんなで思い出に残る活動をすることにしました。そこで、太郎さんはどんな活動がいいか考えて、「手作りの和紙で卒業文集の表紙を作ること」を推薦することにしました。今、太郎さんは、その推薦のスピーチの練習をしているところです。

太郎 友子さん、今から僕のスピーチを聞いて、気付いたことをアドバイスしてください。

友子 はい、分かりました。太郎さん、説得力のあるスピーチをしてください。

太郎 僕は、卒業前の思い出に残る活動として、「手作りの和紙で卒業文集の表紙を作ること」を推薦します。推薦する理由は、三つあります。

一つ目は、世界に一つだけの卒業文集の表紙になるからです。和紙は、一枚一枚模様や手ざわりが違っていて、同じ物はありません。それを自分で作ることで思い出に残る卒業文集の表紙になると思います。

二つ目は、和紙作りの体験が面白いからです。この前、僕は家族旅行で和紙づくり体験をしました。和紙を薄く平らにするまで何度もやり直しながら、やっとできたときの感動が忘れられません。機械で作る紙に比べて、はるかに時間がかかり大変ですが、その苦労があるからこそ自分で物を作る楽しさを感じ、より思い出に残るのだと思います。

三つ目は、日本の伝統文化を体験できるからです。僕が調べたところ、和紙づくりは奈良時代に始まり、その後、様々な改良を加えて現在まで伝わってきているそうです。植物から作られる和紙は丈夫で、折り目を付けたら、引っぱったりしても破れにくいので、手さげ袋やお札など、様々な物に使われています。和紙は、外国からも注目されている日本の伝統文化だそうです。

太郎 これらのことから、僕は「手作りの和紙で卒業文集の表紙を作ること」をお薦めします。（間）どうでしたか、友子さん。これでいいでしょうか。

友子 よくまとまっていると思います。ただし、みんなに納得してもらうためには、工夫した方がいいところがあると思います。例えば……

二人の会話はまだ続きますが、放送はこれで終わります。それでは問題用紙を開いて始めてください。